

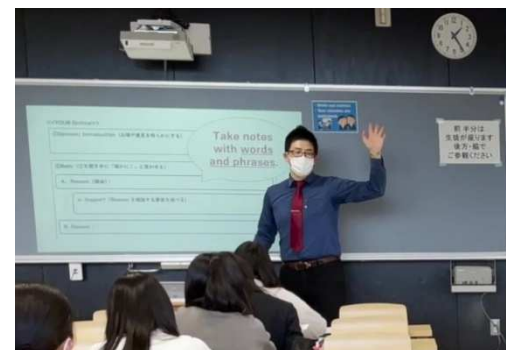
令和3年度 英語教育改善プラン推進事業（県：発信型英語教育拠点校事業）～宮城県白石高等学校～

課題

スピーチやプレゼンなどの準備ありきのスピーキング活動が重視されてきており、多少のエラーを気にせずに発話することに抵抗を持つ生徒が多い。正確さを求めるあまり、実用場面で求められる「即興性」が弱点となっている。

具体的な取組と工夫

- 帯活動として、1年間授業の冒頭でSmall Chatを実施した。段階別に①「日常的な話題・身近な話題に関する考えを述べる」→②「二者択一の問いに対して自分の立場を示し、説得的な理由を述べる」→③「与えられた画像・写真について英語で聞き手に説明する」と段階的に実施し、多様な話題について発話の機会を設けた。
- 表現活動において、教科書のトピックを生徒にとってAuthenticなものに落とし込む工夫をし、自己表現への意欲を高めた。また、「話すこと」を「書くこと」の前に配置し、即興的な発話を促すとともに「話すこと」では使えなかった表現を意識させ、「書くこと」への意欲を喚起した。
- 敬愛大学の向後秀明教授にご講演いただき、新学習指導要領の核・理念に関して次年度以降への展望を見出すことができた。また、「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の指定校として発信力の強化に取り組んだ秋田県立角館高校および秋田北鷹高校を訪問する機会を得て、「話すこと」を実現するまでの具体的な手立てについてご教示いただいた。



成果

- 生徒への授業アンケートより、「英語で最も得意なこと何ですか」について「話すこと」と回答した生徒は3%（6月）→10%（11月）であり、また「英語で最も苦手なこと何ですか」に対する回答は「話すこと」28%（6月）→20%（11月）と変化した。
- 帯活動のSmall Chatにおいて、年度当初は1～2文しか発話できない生徒がほとんどであったが、11～12月頃には1分以上にわたって発話を継続できる生徒が見られるようになった。

課題及び改善案

- 授業アンケートの「身につけたい英語の力は何ですか」について、「話すこと」に次いで多かったのは「聞くこと」であった。相手の話を理解する力をつけるため、リスニング指導にも力を入れる必要がある。
- 「話すこと」の指導において、より説得的になるように「書くこと」と同様に段階的に有用な表現を蓄積し、表現の幅を広げたい。